

1129, 昭31. ④松岡松三・他: 日内会誌, 46: 592, 昭32. ⑤荻原洋三: 日血会誌投稿中. ⑥松岡松三・他: 日消誌, 54: 208, 昭32. ⑦E. Lgger: *Arzneimittelforschung*, Heft 11: 657, 1954. ⑧吉成意之: 診療, 10: 463, 昭32. ⑨M. Stefanini & W. H. Crosby: *Proc. Soc. for Exp. Biol. & Med.*, 74: 370, 1950. ⑩A. S. Douglas: *Brit. J. Hemat.*, 2: 153, 1956.

Studies on Prothrombin and Labile Factor

IV. The Influence of Various Drugs on the Consumption of Prothrombin and Labile Factor

Yōzō Ogiwara

Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Shinshu University
(Director: Prof. M. Matsuoka)

According to the principle of prothrombin consumption test by Quick the author investigated the consumption of prothrombin and labile factor in various patients treated with various drugs. The results obtained were as follows:

1) In 3 cases treated with blood transfusion the prothrombin consumption was increased in one case of chronic myelogenous leukemia, but decre-

ased in one case of right renal tumor. The consumption of labile factor revealed no changes in all cases.

2) In 4 cases treated with Vitamin K (Kativ 50mg) the consumption of prothrombin and labile factor were remarkably increased in one case of acute hepatitis and in one case of cholelithiasis, whereas it showed a slight decrease in one case of liver cancer and no changes in one case of purpura.

3) In one case of Schönlein-Henoch's purpura treated with AC-17 (Adrenochrom) a remarkable increase in the consumption of prothrombin and labile factor was detected.

4) The consumption of prothrombin and labile factor showed a tendency to increase not only in thrombocytopenic purpura but also in normal subjects after the injection of Clauden.

5) The consumption of prothrombin and labile factor was slightly accelerated in all cases of long-term application of Penicillin and Streptomycin.

6) In 4 cases of hypoprothrombinemia induced by the treatment with Phenylindandione the consumption of prothrombin and labile factor was remarkably decreased.

長野県川上村々民の生体計測

昭和33年3月11日 受付

信州大学医学部第二解剖学教室 (主任: 鈴木誠 教授)

鈴木 誠

栗 岩 純

西 嶋 典 夫

森 本 岩 太 郎

I 緒 言

我々は長野県民の身体形質を明らかにする目的をもつて、県下各地域に於て人類学的研究を行つてゐるが、本報告も又その一部をなすものである。

本調査に長野県南佐久郡川上村に於て、昭和30年8月29~31日にわたり実施したものであり、本県東部地方群の資料となるものである。

尙、この調査は日本人の生体計測に関する資料の集積を目的として数年間に亘り行なわれた、文部省科学研究の生体計測班に協力して実施したものである。

我々は既に県下各地域に於て、同様な生体計測を行

なつて来たが、未だ資料が充分と云えないので、各地方群との比較等の詳細な考察に就いては後日を期し、今回はたゞ本村々民の計測成績の概要を報告するにとゞめる。

調査に当り、川上村役場、同村青年団、同婦人会の方々の献身的な御協力をいたゞき、また由井佳直氏には始終格別の御尽力を賜つた。深く感謝の意を表する。

II 調査材料及び研究方法

本村は長野県南佐久郡の最南東に位置し、集落の中央を千曲川が東西に流れ、これに沿つて東西14軒、南北1軒の狭長な所謂谷平野があり、こゝが本村民の居

住地となっている。北部は馬越山脈によつて南相木村と、南部は金峯山により山梨県と、東部は秩父多摩国立公園となつて埼玉、群馬両県と境する。西に控える八ヶ岳の山麓地で、面積209.39平方町、本県の町村中6位に位する大きな村で、人口は5726人、8つの集落からなり、地域的に大別して上、下の二村に区別されている。我々が今回調査を実施したのは、下村であつて、その中の大部分が御所平、大深山の二集落住民である。本村は又、有名な高冷地山村であつて村の中央部で1180米の標高を示している。大部分は農業によつて生計を立てているが、純農家が少く、副業として林業又は家庭工業を営んでいる兼農の多いのが特色である。

調査人員は、男子93人、女子86人、計179人で満20才以上で両親の出生地を本村及び郡内の近接村を持つ者を選んだ、その年令分布は第1表に示した通りである。

第1表 年令分布 ()内%

年 令	男 子	女 子
20 ~ 29才	46 (49.5)	27 (31.4)
30 ~ 39才	21 (22.6)	19 (22.1)
40 ~ 49才	8 (8.6)	18 (20.9)
50 ~ 59才	15 (16.1)	15 (17.5)
60 才以上	3 (3.2)	7 (8.1)
計	93 (100.0)	86 (100.0)

る。

計測方法は、大略 Martin の方法に依つたが、一部は生体測定班で定めた方法に準じた。即ち、前腸骨棘高は前腸骨棘の中央最も前方に突出する点を選び、下肢長は恥骨結合上縁高+右前腸骨棘高により算出した。又、Nasion は左右の眼窩上縁に引いた切線が、正中線と交わる点をもつて代用し、頭耳高は間接法を採用した。

Ⅲ 成 績

1) 体 部

体部に於ける計測平均値及びその指数値は第2表に示した通りである。

計測絶対値に於ては、骨盤幅を除き、すべてに於て男子は女子より大である。骨盤幅のみ女子は男子に勝っているが、有意差は認めない。

体部指数値では、比骨盤幅に於て女子が男子に勝っているが、その他では殆んど男女の差は認められない。

身長について、Martin の分類に従つて表示すると、第3表の通りである。

男女とも"小"に於て最高の比率を示し、"稍小"がこれに次ぐが、平均値では男子では"稍小"、女子では"小"に属する。

2) 頭 顔 部

頭顔部に於ける計測平均値及びその指数値は第4表に示した通りである。

第2表

川上村々民の体部計測値

(絶対値の単位は釐)

	男 子				女 子			
	n	M ± m	σ	V	n	M ± m	σ	V
身 長	93	160.15±0.66	6.37	3.98	86	148.05±0.58	5.40	3.65
胸骨上縁高	93	127.75±0.57	5.48	4.22	84	119.67±0.48	4.38	3.66
右肩峯高	93	130.46±0.58	5.55	4.25	84	119.98±0.50	4.58	3.81
右中指指尖高	93	61.18±0.36	3.48	5.68	84	56.43±0.34	3.15	5.58
右腸骨前棘高	93	87.15±0.43	4.13	4.74	70	81.33±0.36	3.02	3.72
恥骨結合上縁高	92	78.93±0.42	4.00	5.07	69	73.40±0.34	2.80	3.81
肩 峯 幅	93	37.44±0.16	1.59	4.24	82	34.48±0.11	1.02	2.95
骨 盤 幅	93	27.76±0.16	1.56	5.61	81	27.67±0.14	1.28	4.61
上 肢 長	93	69.08±0.33	3.18	4.61	84	63.67±0.28	2.56	4.01
下 肢 長	92	83.11±0.41	3.90	4.69	69	77.17±0.35	2.95	3.82
軀 幹 長	92	50.74±0.29	2.75	5.42	69	46.89±0.27	2.28	4.86
比 上 肢 長	93	43.18±0.13	1.27	2.94	84	42.94±0.13	1.15	2.68
比 下 肢 長	92	51.92±0.14	1.31	2.53	69	51.87±0.14	1.18	2.27
比 軀 幹 長	92	31.81±0.11	1.07	3.35	69	31.55±0.14	1.16	3.66
比 肩 峯 幅	93	23.37±0.08	0.81	3.45	84	23.20±0.09	0.83	3.57
比 骨 盤 幅	93	17.12±0.09	0.87	5.08	81	18.68±0.10	0.89	4.75

第3表 身長分類

分類	男子		女子	
	階級	実数及び比率	階級	実数及び比率
極小	× ~149.0	6 (6.45%)	× ~139.9	5 (5.81%)
小	150.0~159.9	35 (37.63%)	140.0~148.9	45 (52.33%)
稍小	160.0~163.9	30 (32.26%)	149.0~152.9	23 (26.74%)
中等	164.0~166.9	8 (8.60%)	153.0~155.9	6 (6.98%)
稍大	167.0~169.9	7 (7.53%)	156.0~158.9	5 (5.81%)
大	170.0~ ×	7 (7.53%)	159.0~ ×	2 (2.33%)
	計	93 (100.0%)	計	86 (100.0%)

第4表 川上村々民の頭顔部計測値 (絶対値の単位はmm)

	男子				女子			
	n	M ± m	σ	V	n	M ± m	σ	V
頭長	93	190.55±0.57	5.51	2.89	85	181.55±0.55	5.07	2.79
頭幅	93	153.52±0.54	5.19	3.38	86	146.98±0.52	4.83	3.29
頬骨弓幅	90	143.99±0.52	4.98	3.46	81	135.32±0.54	4.88	3.60
下顎角幅	79	105.73±0.63	5.61	5.30	54	98.78±0.64	4.72	4.79
相貌顔面高	76	188.87±0.88	7.71	4.08	48	178.65±1.02	7.02	3.93
形態顔面高	80	128.17±0.63	5.66	4.41	66	122.83±0.69	5.60	4.56
鼻高	79	55.86±0.50	4.46	7.98	56	52.93±0.36	2.70	5.29
鼻幅	79	38.27±0.27	2.36	6.17	56	35.46±0.29	2.20	6.21
頭耳高	92	132.48±0.86	8.26	6.69	84	119.11±0.76	6.96	5.85
頭長幅示数	93	80.65±0.36	3.44	4.26	85	81.10±0.21	2.41	2.98
頭長高示数	92	64.85±0.44	4.21	6.50	85	65.99±0.50	4.53	6.86
頭幅高示数	92	80.25±0.55	5.32	6.62	86	81.42±0.56	5.18	5.18
形態顔面示数	84	89.25±0.55	5.01	5.61	65	90.84±0.63	5.07	5.59
頬骨下顎示数	79	73.29±0.41	3.67	5.00	48	72.15±0.47	3.26	4.51
横頭顔示数	90	93.91±0.35	3.28	3.49	81	92.17±0.30	2.67	2.90
鉛直頭顔示数	83	104.84±0.81	7.35	7.00	66	103.29±0.97	7.85	7.60
鼻高幅示数	79	67.99±0.76	6.73	9.89	56	67.30±0.74	5.55	8.25

頭顔部計測絶対値は、すべてに於て男子は女子より大である。その指数では、頭長幅指数、頭長高指数、頭幅高指数、形態顔面指数に於て女子は男子に勝り、頬骨下顎指数、横頭顔指数、鉛直頭顔指数、鼻高幅指数では逆に男子が女子に勝っている。但、有意差を認め得るのは、男子が女子に勝る横頭顔指数のみである。

主なる指数について、分類に従つて表示したのが第5~8表である。

頭長幅指数では、男女とも中頭型が最高、次いで短頭型の順に分布比率を示している。平均値では、男子は中頭型の上限に、女子は短頭型の下限に属してい

る。頭長高指数は男女共略同じ分布比率を示して高頭型が最も多く、平均値に於ても、男女とも高頭型に属する。頭幅高指数は男女何れも、中頭型、低頭型、高頭型の順に分布比率を示し、平均値に於ても、男女何れも中頭型に属する。形態顔面指数は、その分布は男子では長顔、中等顔、過長顔の順であるが、女子では長顔、過長顔、中等顔の順を示している。但、平均値では、男女何れも長顔型に属している。

IV 総括

長野県南佐久郡川上村々民(男子93名、女子86名)の生体計測による成績を要約すると次の通りである。

- 1) 計測絶対値に於ては、骨盤幅の女子が男子に

第5表 頭長幅指数分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率
長 頭	× ~75.9	9 (9.68%)	5 (5.88%)		
中 頭	76.0~80.9	40 (43.01%)	40 (47.05%)		
短 頭	81.0~85.4	35 (37.63%)	32 (37.65%)		
過短頭	85.5~ ×	9 (9.68%)	8 (9.42%)		
	計	93 (100.0%)	85 (100.0%)		

第6表 頭長高指数分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率
低 頭	× ~57.6	3 (3.26%)	1 (1.18%)		
正 頭	57.7~62.5	23 (25.00%)	19 (22.35%)		
高 頭	62.6~ ×	66 (71.74%)	65 (76.47%)		
	計	92 (100.0%)	85 (100.0%)		

第7表 頭幅高指数分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率
低 頭	× ~78.9	37 (40.21%)	31 (36.47%)		
中 頭	79.0~84.9	41 (44.57%)	34 (40.00%)		
高 頭	85.0~ ×	14 (15.22%)	20 (23.53%)		
	計	92 (100.0%)	85 (100.0%)		

第8表 形態顔面指数分類

分類	階 級	男 子		女 子	
		実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率	実数及び比率
過短顔	× ~78.9	0 (0.%)	1 (1.52%)		
短 顔	79.0~83.9	12 (14.29%)	2 (3.03%)		
中等顔	84.0~87.9	24 (28.57%)	17 (25.76%)		
長 顔	88.0~92.9	30 (35.71%)	26 (39.39%)		
過長顔	93.0~ ×	18 (21.43%)	20 (30.30%)		
	計	84 (100.0%)	66 (100.0%)		

勝るのを除いて、他はすべてが男子が女子より大きい。

2) 指数値では、体部に於ては比骨盤幅のみ女子が男子に勝っている。他は男女間に差がない。頭顔部では、横頭顔指数に於て明らかに男子が女子より大きい。他は、男女間に顕著な差をみとめるものはない。

3) 身長は男子では "稍小", 女子では "小" に属する。

4) 頭長幅指数は男子は中頭型, 女子では短頭型である。

5) 頭長高指数は男女とも高頭型である。

6) 頭幅高指数は男女とも中頭型である。

7) 形態顔面指数は男女とも長顔型に属する。

参 考 文 献

①文部省科学研究生体測定班報告書: 日本人の生体測定, 昭25, 昭26, 昭27. ②Martin, R.: Lehrbuch der Anthropologie, 3 Aufl., Stuttgart, 1957.

③鈴木 誠・栗岩 純・西沢康司: 長野県藤沢村々民の体生計測, 信州医学雑誌, 3, 3: 13, 昭29.

④鈴木 誠・栗岩 純・西沢康司: 長野県和田村々民の体生計測, 信州医学雑誌, 5, 3: 41, 昭31.

⑤鈴木 誠・西沢康司・西嶋典夫: 長野県新開村々民の体生計測, 附, 長野県伊那谷と木曾谷住民との身体形質の比較, 信州医学雑誌発表予定.

Somatometry of the Inhabitants in Kawakami-Mura, Nagano Prefecture

M. Suzuki, M. Kukuiwa, N. Nishijima and I. Morimoto

Department of Anatomy, Faculty of Medicine, Shinshu University (Director, Prof. M. Suzuki)

The authors carried out an anthropometric investigation in 179 adult inhabitants (93 males and 86 females) in Kawakami-Mura, Nagano prefecture, in August 1955.

The measurement values, indices and classification of indices of the population are shown in tables.

The results are summarized as follows:

1. All measurement values in male, except the breadth of hips, in male are larger than those in female. In the indices of body, the relative breadth of hips in female are larger than that in male. In all indices of head and face, any significant differences can not be recognized between male and female.

2. In stature, males are "a little short" and females are "short" (160.15 cm in male and 148.05 cm in female).

3. In the cephalic index, males are mesocephalic and females are brachycephalic (male 80.65 and female 81.10). In the other indices of head, both sexes are hypsicephalic (male 64.85 and female 65.99) and metriocephalic (male 80.25 and female 81.42). They are leptoprosopic (male 89.25 and female 90.84) in face.